

*漢詩の構成を絶句（杜甫）から学ぼう

「漢詩の構成」

第四句	第三句	第二句	第一句	
(結句)	(転句)	(承句)	(起句)	
何日 いふは レノカ コレ 是帰 カ 年 ニ シ ン	今春 イマ ス 看又 ミタ 過 ク	山青 ヤマ アヲ 花欲 ハハ レ然 カ 然 カ	江碧 カハ アヲ 鳥逾 ハハ 白 ク	絶句 杜甫
全体をまとめて結ぶ。	場面を一転する。	起句を承けて発展する。	情景を歌い起す。	

「絶句」という題。

□ 語訳

川は碧色に透き通り、鳥はいつそ
う白く見える
山は青々として、花は今にも燃え
出しそうに赤い
今年の春もあれよあれよという間
に過ぎてゆく
(わたしは)いつ故郷に帰れるの
だろう

江(川)と山
碧と青
鳥と花
白と然 (燃え出しそ
うに赤い) が対句と
なっている。

対句
用語・組み立てが
つり合った二つの句を
並べること。
対句によって、漢詩
全体のイメージが豊
かに。この詩では第
一句と二句が対句。

然と年が押韻になっ
ている。

押韻
句の終わりに、同じ
音(おん)や似た響
きの字を置くこと。
読み上げたとき、響
きが美しく、詩のリ
ズムが整う。